

分析試験成績書

第507030193-003号
2007年(平成19年)04月03日

依頼者 株式会社 クロスポイント

検体名 GK-J5型

財団法人

日本食品分析センター

東京本部 〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町52番1号
大阪支所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町3番1号
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区博多駅前1番12号
多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市氷川6丁目11番10号
千歳研究所 〒066-0052 北海道千歳市文京2丁目3番
彩都研究所 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目4番41号

2007年(平成19年)03月05日当センターに提出された上記検体について分析試験した結果は次のとおりです。

分析試験結果

分析試験項目	結果	検出限界	注	方法
耐圧性能試験	異常なし		1	

注1. JIS S 3200-1:1997「水道用器具-耐圧性能試験方法」。負荷水圧:1.75 MPa及び20 kPa

以上

浸出試験

1 依頼者

株式会社 クロスポイント

2 検 体

JS-500

3 試験概要

検体についてJIS S 3200-7:2004「水道用器具-浸出性能試験方法」により、カドミウム及びその化合物等の浸出試験を行った。

4 試験結果

結果を表-1及び2に示した。

表-1 浸出試験結果

項目	結果	検出限界
カドミウム及びその化合物	検出せず	0.001 mg/L
鉛及びその化合物	検出せず	0.001 mg/L
六価クロム化合物	検出せず	0.005 mg/L
ほう素及びその化合物	検出せず	0.1 mg/L
亜鉛及びその化合物	0.019 mg/L	***
アルミニウム及びその化合物	0.03 mg/L	***
鉄及びその化合物	検出せず	0.03 mg/L
銅及びその化合物	検出せず	0.01 mg/L
ナトリウム及びその化合物	1.4 mg/L	***
マンガン及びその化合物	検出せず	0.005 mg/L
フェノール類	検出せず	0.0005 mg/L
有機物[全有機炭素 (TOC) の量]	検出せず	0.3 mg/L
味	異常なし	***
臭気	異常なし	***
色度	0.5度以下	***
濁度	0.16度	***

区分：給水管等

表-2 浸出試験結果

項目	結果	
	試料液	空試験液
硬度	42 mg/L	42 mg/L
pH	7.2 (22 °C)	7.4 (22 °C)

5 試験方法

1) 浸出操作

検体を水道水(東京都多摩市)で1時間流水洗浄した後、精製水で3回洗浄した。次に、浸出液(pH7.0±0.1, 硬度45±5 mg/L, アルカリ度35±5 mg/L, 残留塩素0.3±0.1 mg/L)で3回洗浄した。洗浄後、検体に浸出液を充てんし、約23℃で16時間静置して得られた液を試料液とした。また、浸出液を同条件で静置し、空試験液とした。

2) 測定方法

測定方法を表-3に示した。

表-3 測定方法

項目	測定方法
カドミウム及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
鉛及びその化合物	誘導結合プラズマ質量分析法
六価クロム化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
ほう素及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
亜鉛及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
アルミニウム及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
鉄及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
銅及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
ナトリウム及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
マンガン及びその化合物	誘導結合プラズマ発光分光分析法
フェノール類	固相抽出-誘導体化-ガスクロマトグラフ質量分析法
有機物[全有機炭素(TOC)の量]	全有機炭素計測法
味	官能法
臭気	官能法
色度	透過光測定法
濁度	積分球式光電光度法
硬度	EDTA溶液滴定法
pH	ガラス電極法

以 上